



ガラス造形作家

西中千人 × 田中恭一

メニコン 創業者会長

Yukito Nishinaka

Kyoichi Tanaka



人間邂逅

chance encounters

京都 法然院参道、西中千人作ガラスアートの枯山水「つながる」にて。

壊すことから始まる

弊

社の研究員には、「もっとバカになれ」といつも言っています。

でも、なかなかバカにならない。

常識が邪魔をしているからです。越えられない壁も自分がつくっている幻想にすぎない。つまり、産業でも芸術でも、何かを生み出すというのは、自分自身の先入観や既存概念を叩き壊すことから始まるのです。

ガラス造形作家の西中先生は、わざと自分の作品を壊し、再度、破片をつなぎ合わせる「ガラスの呼継」という技法で、不完全の美を表現される方。ヒビやつなぎ目といった、一見、欠点と思えるものこそが、実は個性であり魅力であるということです。

そんな西中先生と出会ったのは、13年前。知人の紹介でした。そのとき初めて先生の作品を拝見し、共鳴するものがありましてね。以来、進化する独特の作品を楽しむにしています。

自分の作品を壊すのはとても勇気がいることです。でも本気ならできる。先生とお会いすると、いつも目的に向かって本気で闘う情熱を感じます。それは日本で初めて角膜コンタクトレンズをつくった私の執念と通じ合うものなのかもしれません。

社員にも入魂の作品に触れて感じてほしい、社内の飲み会でも先生のぐい呑みを出して使ってもらいます。みんな魅了されながらも、「壊したらどうしよう」と恐る恐る手にしています。壊してほしいのは、自分自身の殻なのですが(笑)。(田中) **P**